飯舘村の取組みについて（ラオス人民民主共和国）

１．交流のきっかけについて

平成21年度に村の子ども達の提案がきっかけで、ラオスの子ども達へ学校を贈るプロジェクトが始まりました。村内での募金活動、ふるさと納税を活用して集めた建設費用の一部を、アジア教育友好協会（AEFA）を通じて支援し、3年後の平成24年2月に、サラワン県のドンニャイ村に新中学校が完成しました。

東日本大震災後はドンニャイ中学校の卒業生が村を訪れ、村役場への訪問や仮設校舎に通う子どもたちとの交流などを行い、交流の拡大を図りました。

東京2020オリンピック・ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸを契機として、震災前から続くラオスとの交流を拡大していきたいと思います。

ドンニャイ中学校の
開校式の様子

２．震災後の取組みについて

【平成29年度】

飯舘中学校では東日本大震災以降過ごした仮設校舎での思い出やクラスメイトとの日々を写真に収めたポスターを作成。作成したポスターは、今年4月にラオスの子ども達へ届けられ、ラオスとの交流を深めました。

また、2月には村職員と村民でラオスへの表敬訪問を実施。事前合宿誘致に向け、ラオス教育ｽﾎﾟｰﾂ大臣へ飯舘村のＰＲを実施しました。

ポスターを受け取った
ラオスの子ども達

【平成30年度】

8月30日にラオス視察団が来村。村内のスポーツ公園や宿泊施設、道の駅等を視察しました。また、視察以外にも、村民などを招き歓迎会を実施するとともに、30日の昼食では村の学校に通う子ども達と給食を食べ、中学校で行っている、ふるさと学習の授業に参加するなどして、視察以外でも村との交流を深めました。

視察時の関係者協議の際には、パラリンピックの水泳と陸上について飯舘村で事前合宿を実施してみたいなど、東京2020オリンピック・パラリンピックの事前合宿誘致に向けて前向きな回答を得る事が出来ました。

視察の様子

３．これからの取組みについて

飯舘中学校では、昨年度同様にふるさと学習の時間を利用してラオスについての学習を進めており、子ども達の広い視野と柔軟な考え方で、飯舘村とラオスの交流拡大に向けて活動を進めています。

こういった学校での活動はもちろんのこと、飯舘村とラオスとの交流について、村広報、報道等で広く情報を発信し、村民一人一人の東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成を図りたい考えです。

また、ラオスとの事前合宿誘致が前向きに進んだことに伴い、住民参加型のホストタウン事業（オリンピック・パラリンピック期間中のボランティア活動、聖火リレーの応援等）の具体的な計画を策定していきます。